



Webサービスイニシアティブ 活動紹介

2007年3月10日

ご紹介内容

- Webサービスイニシアティブについて

- 三年間の活動紹介
- 活動成果概要の紹介

設立主旨と事業内容

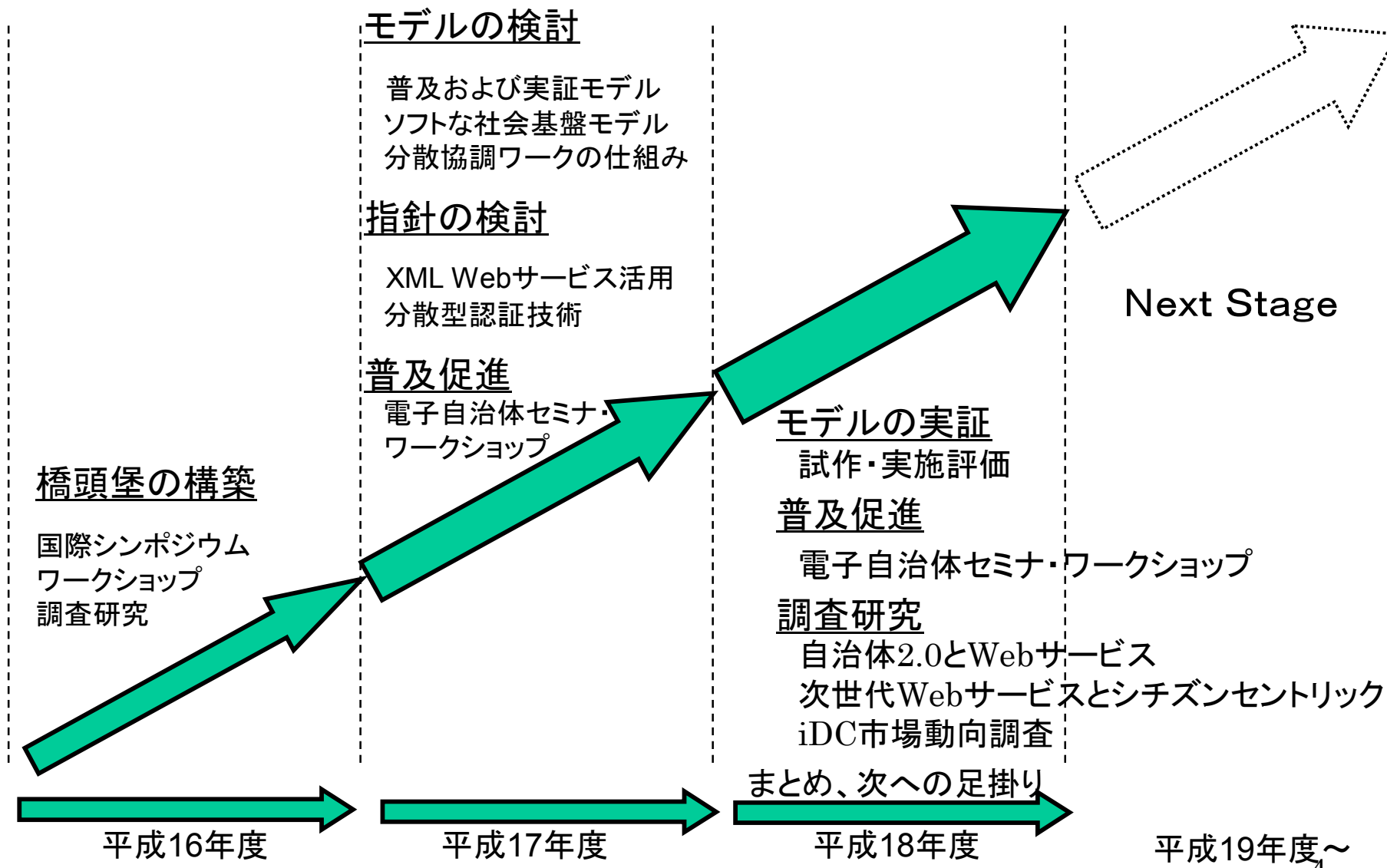
設立主旨

情報通信技術と社会システムの総合的な研究を実施し、Webサービス技術を中心として幅広く電子政府・電子自治体など e-Japan戦略実現の戦術面について、将来の情報社会のあるべき基盤を確立するため、長期的観点から政策提言および技術開発・標準化を推進する。

事業内容

- ① 政策、技術の調査・研究および開発
- ② 情報社会基盤技術の実証実験企画立案
- ③ 情報社会基盤の構築・運用および普及の支援
- ④ 活動現場への情報社会基盤の啓発・教育
- ⑤ 諸外国の情報収集と関連諸団体との連携

三年間の活動経過



主要活動テーマ

部会・分科会活動 <普及促進・施策提案・実証の素材検討と作成>

- 電子自治体・電子政府におけるWebサービス活用モデルの検討
- 公的領域(公共圏)におけるWebサービス実証モデルおよび普及モデルの検討
- Webサービスに基づく分散協調ワークモデルの調査研究
- Webサービス利活用のための技術的な指針の検討
- 電子自治体システム構築基盤としてのiDCの調査研究
- WebサービスにおけるWeb2.0(自治体2.0の提唱)

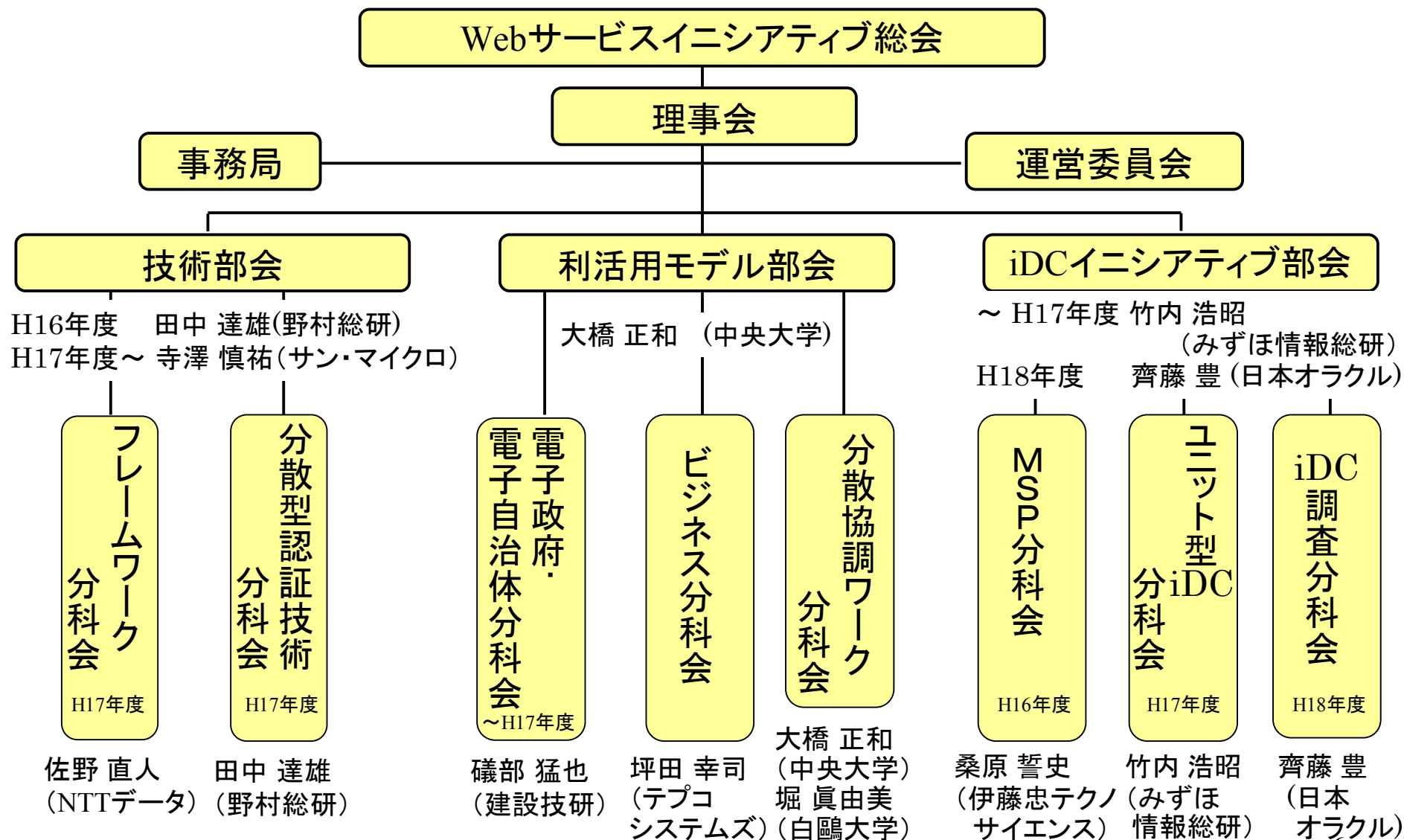
普及促進活動 <部会・分科会の活動成果を基に展開>

- 電子自治体セミナーの実施
- 活動成果としての報告書配布と関連書籍の発行

調査研究活動、その他 <部会・分科会活動の他に>

- 国際シンポジウムとワークショップ
- 動向調査委託(適用事例、標準化、iDC市場)

活動体制



ご紹介内容

- Webサービスイニシアティブについて

• 三年間の活動紹介

- 活動成果概要の紹介

電子政府・電子自治体分科会

〈利活用モデル部会〉

活動目的

政府・自治体内(in G)と政府・自治体間(G to G)を中心に、高度なワンストップサービスさらにはレガシーシステムの統合化を実現するための次世代プラットフォームを、Webサービス技術を用いて実証する。
⇒ Webサービス活用のソフトな基盤モデルの提案

検討方針と進め方

◆検討方針◆

- ①Webサービスは手段として位置づける
- ②トップダウンアプローチで進める
- ③省庁にまたがるテーマを対象とする



◆検討の進め方◆

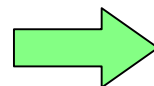
- ①各省庁のIT関連施策の整理
- ②ソフトな社会基盤としてのイメージづくり
- ③実現メニューの具体化とマイルストーンの作成

ビジネス分科会

〈利活用モデル部会〉

・ 活動目的

Webサービスの有効性を、官民連携のシチズン・セントリックな安全・安心・便利サービスとして可視化し、民間の立場からWebサービスの活用を推進する



カスタマセントリックモデルの
提案

普及モデルと
実証モデル

普及モデル

- Webサービスの社会インフラとしての認知度向上と、**利用者自らの利便性**を促進する。
- Webサービスの解釈を広げシチズン(カスタマー)セントリックな生活便利ポータルに至る役に立ち、実用性・実現性が高く、サービス提供者、利用者にそれぞれメリットがある事をコンセプトとして生活便利ポータルを検討。

実証モデル

- 公的なインフラのみならず、民間が広げてきた社会インフラを有効活用した社会モデルを提唱する。
- 既存の社会インフラを有効活用した社会モデルの検討、有志のコンソーシアムにて検討している実証モデルをコンソーシアムからの要請によって評価、実証実験結果の評価を行う。

分散協調ワーク分科会

〈利活用モデル部会〉

・活動目的

進展しつつあるeビジネスが商取引、業務遂行、就業(特にテレワークによる在宅勤務の採用による女性能力の活用)においてどのような実態にあるのか、また、eビジネスを推進して行く上での課題は何か、将来方向のあり方を実証的に調査研究

⇒ シチズンセントリックを実証する分散協調ワークの提案

・検討の進め方

現場に立脚して市民の視点から半歩先の技術・利用を見据える
テレワークの実施状況の調査、市民中心の利用事例調査と
先進技術(製品)の実情調査

成果を書籍として出版

「次世代XML Webサービスとシチズン・セントリックの考え方」

フレームワーク分科会

〈 技術部会 〉

・ 活動目的

▶ 正確な現状認識と、あるべき姿の定義

Webサービスに対する認識が人によってまちまちであるという現実を把握し、
正確な現状認識(As-Is)と、あるべき姿(To-Be モデル)の定義を行う。

⇒ Webサービス技術の現状と今後の展開に向けて

・ 検討の進め方

1. Webサービスに関連する言葉や未来像を定義する(To-Be)

「いつでも、どこでも、誰でもITの恩恵を実感できる社会の実現」=トラステッドネットワークの構築
セキュア基盤やアイデンティティ基盤の上にサービス基盤を位置づけ

2. 現状の整理と技術としてできることの棚卸し(As-Is)

- a. セキュア基盤 : SSL、Web-Security等の技術を中心に構築可能
- b. アイデンティティ基盤: ⇒ 分散型認証技術(分)活動参照
- c. サービス基盤 : XML(データ)と業務レベルサービスの標準化が必要
業界毎に標準化への検討を行わなければならない部分が多い

3. As-IsとTo-Beの差を埋めるために必要な技術の洗い出し

分散型認証技術分科会

活動目的

〈 技術部会 〉

- SAML、Libertyに代表される分散型/連携型の認証技術を整理する
⇒ 認証技術ガイドラインの提案

活動概要

- 技術調査(SAML、Liberty、各社製品情報の整理)
- 事例調査(国内外の事例調査)
認証技術ガイドライン

- | | |
|---------------------|---|
| 第1章 はじめに | 1.1 社会情報システムの将来像と実現に向けた課題
1.2 アイデンティティマネジメント基盤の必要性 |
| 第2章 先行事例 | 2.1 米国政府: E-Authentication
2.2 フランス政府: ADAE(フランス情報産業局)
2.3 JCB認証サービス: J/Secure
2.4 欧州電子自治体プロジェクト: eMayor |
| 第3章 政府／自治体への導入アプローチ | 3.1 導入アプローチの概要
3.2 認証基盤の整備
3.3 アクセス権限の統治 |

用語集
認証関連製品

技術部会(平成18年度)

〈 技術部会 〉

活動目的

- Web2.0に代表される近年の動きを踏まえ、xxx2.0の視点からWebサービスの位置づけを明確にして、その適切な利活用の道標を立てる
⇒ 「自治体2.0とWebサービス」として提案

活動概要

- WebサービスとWeb2.0の相互関係を明確にする
Web2.0の本質はモデルのパラダイムシフト
Web サービスは連携の技術
- 自治体とWebの進展に関してこれまでとこれからの事象を技術的に整理
- 自治体のあり方におけるパラダイムシフトとして「自治体2.0」を提唱
Web サービス(Web2.0)が自治体にパラダイムシフトをもたらしたのか
自治体2.0というパラダイムシフトにWeb サービスがうまく合致したのか
- 自治体2.0を実現する技術について考察し、提案

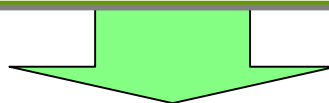
iDCイニシアティブ部会

活動目的

〈iDCイニシアティブ部会〉

- 1) インフラ(設備)から官民ビジネス拠点としてのiDC要件の検討
⇒ Webサービスを活用するプラットフォーム検討
- 2) iDCの普及及びフォローアップ
⇒ iDC事業者及びiDC利用に係わるユーザ動向等の調査
⇒ 『iDC活用ガイドライン』等の改訂
- 3) iDCの高度利用化の検討

活動概要



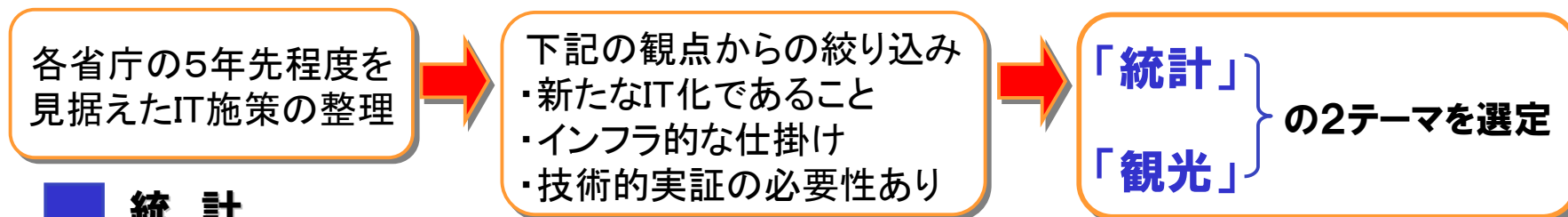
- 1) 公共iDCのフォロー
第1回電子自治体セミナー(H17・7・8、北九州)にて「各地で進む公共iDCの展開状況」を発表
- 2) ユニット型iDCの仕様検討
ユニット型セキュアサーバーーム仕様Ver1.0とりまとめ
- 3) 『iDC市場動向調査』の改訂検討

ご紹介内容

- Webサービスイニシアティブについて
- 三年間の活動紹介
- 活動成果概要の紹介

Webサービス活用のソフトな基盤モデルの提案

〈電子政府・電子自治体分科会〉

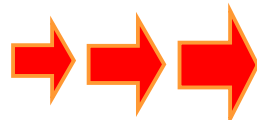


統計

○具体的な対象：毎月勤労統計調査（指定統計第7号）

技術的な課題
制度的な課題
無駄やロス

の抽出



＜Webサービスに期待する効果＞

- ・報告者負担の軽減
- ・調査事務の効率化

観光

○官民による観光情報提供サービスの連携を構想

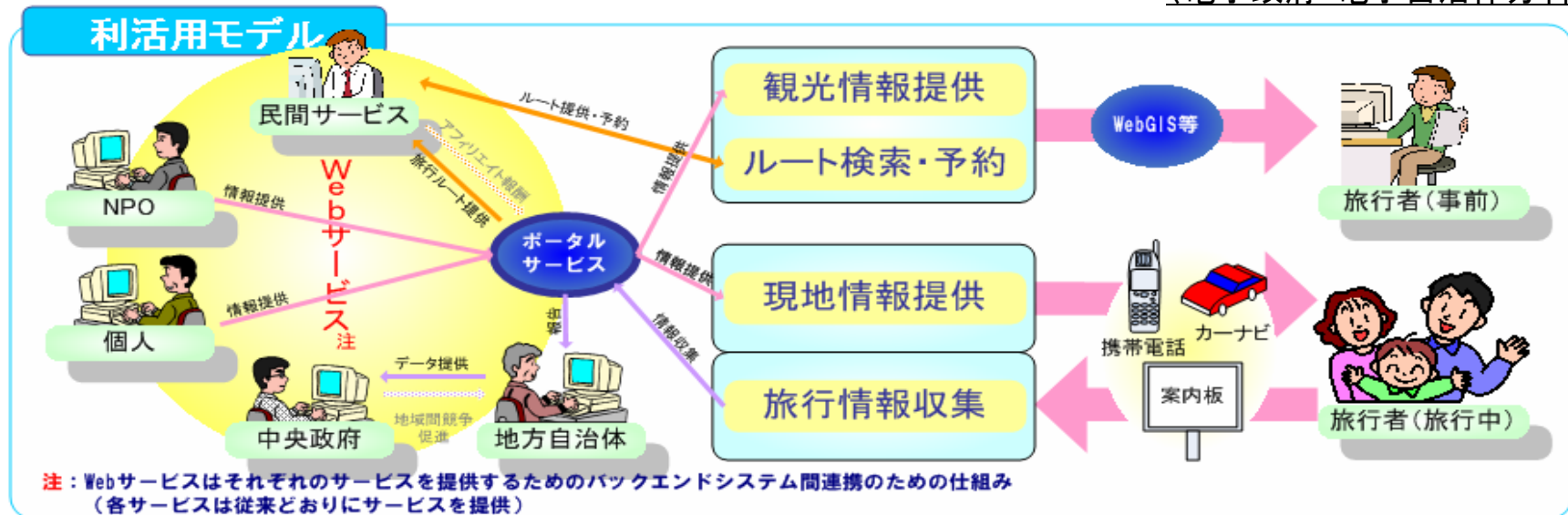
対象サービス(案)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ●観光情報提供（日本各地の魅力発信） | ●携帯情報端末への観光情報プッシュ配信 |
| ○観光ルート検索（地図サービス） | ●観光情報自動収集（観光統計等に活用） |
| ○予約（事前予約） | ●自治体間観光統計情報リアルタイム連携 |
| ●案内板・インフォメーションセンター | |

注）●：行政、○：民間

モデル例：観光情報提供モデル

〈電子政府・電子自治体分科会〉



モデルの概要

- 季節毎、リアルタイムに変化する観光情報を一括・網羅的に収集・配信。
- 観光旅行プランデータを各種の民間サービスへ連携。
- 観光関連団体、NPO、（個人ホームページ）等から詳細な観光情報を自動収集
- 域内の観光資源（詳細情報）を携帯端末へプッシュ配信。
- 各種の媒体から提供される観光情報を自動収集→観光統計へ活用。

想定効果(課題)

- 中央政府－自治体－観光団体等、民間サービス間で観光情報を融通【データ連携】
- 自治体間比較が可能となり地域間競争を促進【システム間連携】
- 単なる情報提供にとどまらず、旅行者は一度の入力で情報検索→ルート案内・予約→統計データ提供の一連サービスを楽しむ【プロセス連携】
- 民間サービスと連携することでアフィリエイト収入を期待（収入の是非は課題）

統計と観光への提言および課題提起

〈電子政府・電子自治体分科会〉

統 計	観 光
Webサービスを活用した毎勤統計モデル ●日本標準産業分類に基づく分類システムを開発 ●既存DBの連携による標本抽出誤差の最小化 ●差分オンライン調査による報告者負担の軽減 ●各種社会経済の実態指数等の新たな算出 ＜課題＞ ○技術的課題 ●アーキテクチャモデルの確立とインターフェイスの標準化 ●データの標準化 ●レガシーシステムとの相互運用性確保 ○制度的課題 ●法律（統計法等）改正 ●用語の統一 ●個人情報保護に対する確実な措置 ●オンライン化に伴う制度設計	「Webサービス活用による観光情報流通計画」 ○民間との協調を前提とすべき ○官側で行うべき基盤整備 ●観光データに係わる標準 ●データ管理環境整備 ●データの信頼性などを保証する枠組み ○民間側へのインセンティブ付与 ＜課題＞ ○技術的課題 ●認証基盤の確立 ●セキュリティ ●パフォーマンス（ボトルネックの解消） ○制度的課題 ●民間への情報提供の是非 ●アフィリエイト収入の是非 ●旅行データ、統計データの標準化

普及モデル: 生活便利ポータル

〈ビジネス分科会〉

生活カレンダー

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
友引 1月2日	先負 3日 燃えるゴミの日(㊄)	仏滅 4日	大安 5日
先負 10日 〇〇市成人の日 資源ゴミの日(㊄)	大安 11日	赤口 12日	先勝 13日 燃えるゴミの日(㊄)
仏滅 16日 燃えないゴミの日(㊄)	大安 17日 燃えるゴミの日(㊄)	赤口 18日 テニス教室(桜庭町)	先勝 19日
大安 23日 資源ゴミの日(㊄)	赤口 24日 燃えるゴミの日(㊄)	先勝 25日	友引 26日
友引 30日 燃えないゴミの日(㊄)	先負 31日 燃えるゴミの日(㊄)	仏滅 2月1日	大安 2月2日

RSS利用

RSS利用

RSS利用

RSS利用

緊急情報

現在、緊急情報はありませ

サイトリンク

自治体サービス

くらし

ビジネス

市の方針

おしらせ

11/14 紀宮清子内親王のご結婚に伴う記帳所の設置
11/14 ウォームビズへの取り組み

イベント

10/30 キャンドルナイトの開催(12/17)

募集

10/30 キャンドルナイトの参加者募集

書籍の検索・購入・借用

図書館

amazon

検索

この条件で検索

乗車駅

駅

駅一覧

下車駅

駅

駅一覧

2005年10月18日

2時10分

出発

到着

Webサービス(自治体・新規)

Webサービス(民間・既存)

Webサービス(民間・既存)

Webサービス(民間・既存)

検索サービス

○辞書

○郵便番号

○宅急便

○インターネット

検索

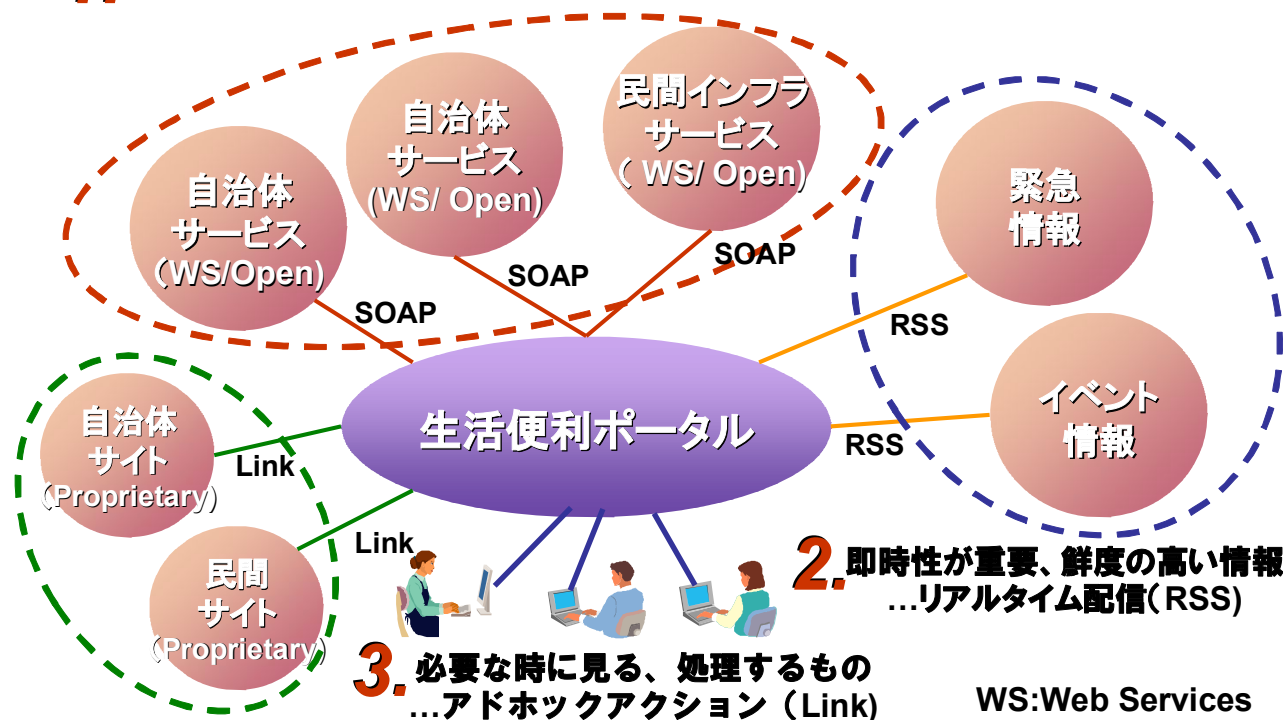
イベントの表示(RSS拡張の利用)

普及モデル: サービス分類と実現技術

〈ビジネス分科会

利用者が必要な情報や緊急の情報を、必要なときにスムーズに探し出せる仕組みを実現

1. 汎用的なロジックがあるもの... 汎用サービス(Webサービス/SOAP)



● 一次提供者

- ✓利用者へのサービス向上
(安心、安全、便利の提供)
- ✓リアルタイムな情報伝達、情報共有
- ✓構築コストの低減

● 二次提供者

- ✓新たなスキームの実現
- ✓新たな価値を創造

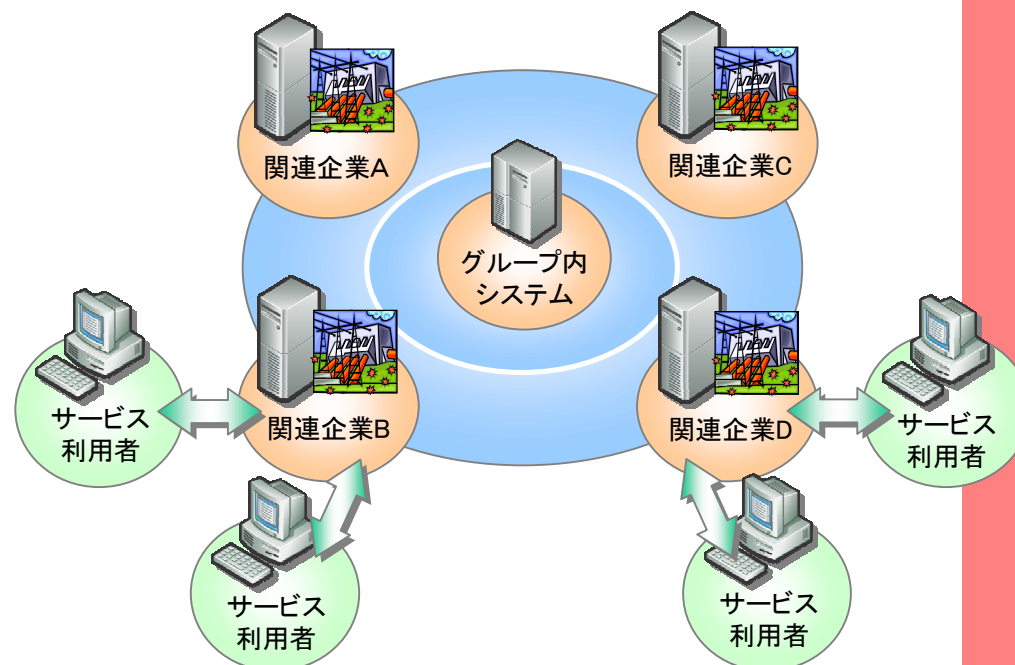
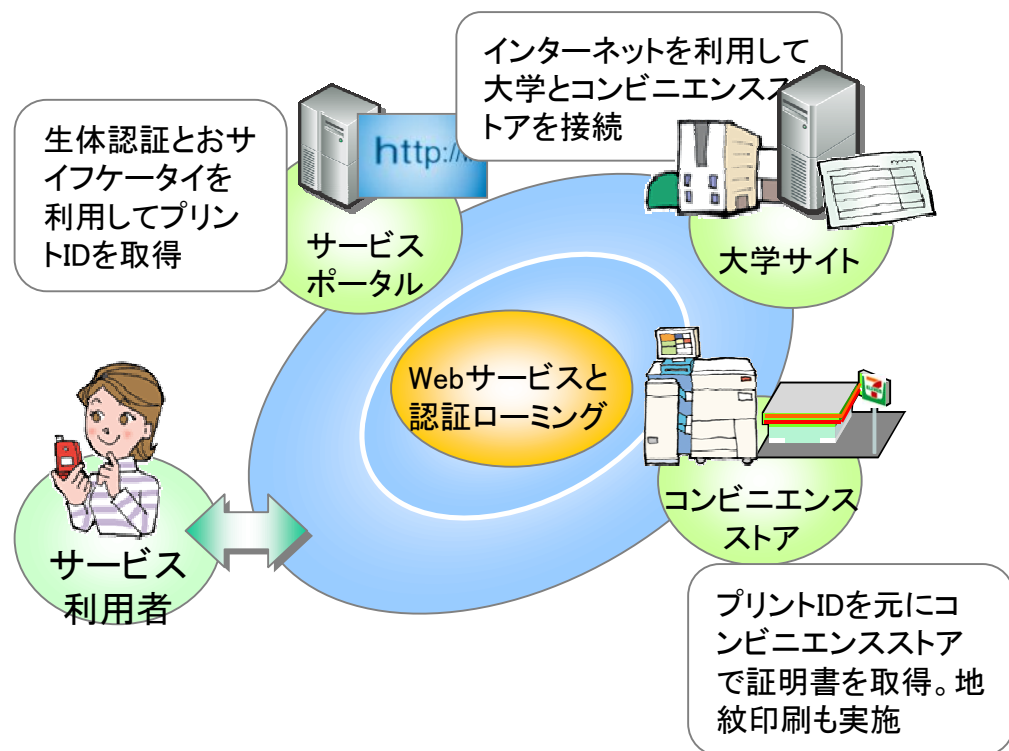
● サービス利用者

- ✓緊急情報の速やかな入手
- ✓必要な情報やサービスをいつでも享受

実証モデル:いつでもどこでも窓口

〈ビジネス分科会〉

B to C モデルイメージ



B to B モデルイメージ